



教師を目指す学生による「学生文化」「学校文化」の創造と
新たな「学生と学校のWin-Winの関係」の構築

東浦町SP通信

～東浦町では、学生ボランティアを“職員の仲間”という思いを込めて、
「SP」または「スクールパートナー」と呼んでいます。～

第3号

2026年5月19日

編集 緒方 なな
東浦町教育委員会
SPコーディネーター

じっくり見る、じっくり関わる

5月に入り、暑く感じる日も増えてきました。身体が暑さに慣れていないこの時期は、熱中症のリスクが高まります。子どもたちの様子も気にかけてもらうとともに、SPさんも意識的に水分補給などをして体調の変化に気を付けて活動してくださいね。



←卯ノ里小 神守SP

この日は、起震車が卯ノ里小学校に来ており、防災（特に地震）についての学習を4年生がしていました。その支援に入っていた神守SP、熱心にたくさんメモを取っていました。活動時に気になったことや勉強になったことをメモしているようです。私がSP活動をしていた時はこんなにメモを取っていませんでした……（反省）。「活動はどうですか？」と聞くと、「楽しく活動させていただいています！少しずつ子どもたちとの関係もできてきました。」「1週間に1回の活動ですが、先週できなかったことが今週はできるようになっている子がいて成長を目の前で見ることができたり、話しかけてもなかなか話をしてくれなかった子が『先生見て！』と話しかけてくれるようになったりして、その時はとても嬉しかったです。」と笑顔で答えてくれました。熱意満載、一生懸命な神守SP、これからも引き続きよろしくをお願いします。



大学3・4年生のSPさんは、そろそろ教育実習の時期かと思います。教育実習だからこそできること、感じられることがあります。それと同様に、SP活動だからこそできることもあります。その1つに、「一人一人の子どもたちとそれぞれじっくり関われる」ということがあります。「なぜ、この子は今この行動をしたのか。」「なぜ、このような言動に至ったのか。」、その子の“背景”まで考えながら子どもたちを見てみてください。教師に必要な力はいくつか種類があると言われますが、その1つに「見る（見取る）力」があります。SP活動中から高めていくことのできる力ではないかと思います。SPという立場だからこそ、じっくり子どもたちと関わえりながら、児童・生徒理解を深められるのではないかと思います。